

# ATEM Newsletter

Apr. 2011 NO.21

発行日 :2011年11月25日  
 発 行 :映画英語教育学会事務局  
 住 所 :〒169-0075  
         東京都新宿区高田馬場  
         4-3-12アルク高田馬場4F  
 TEL :03-3365-0182  
 FAX :03-3360-6364  
 E-mail :office@atem.org  
 郵便振替 :00820-3-1477

**ATEM 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies**

## ATEM(映画英語教育学会)第4代新会長に角山照彦氏が選出!!



### ■ 新会長の挨拶

ATEM第4代会長  
 角山照彦 教授  
 (広島国際大学)

Teruhiko KADOYAMA

この度図らずも映画英語教育学会第4代会長を任されることとなりました。何分未熟な身ではあります、何卒よろしくお願ひいたします。

私が会長として目指すことは、本学会の学術団体としての地位をより強固なものにしてゆくと共に、産学協同を視野に入れた「開かれた学会」として学会の活性化を図ることであります。

1995年の設立以来、本学会はこれまで映画を活用した英語教育の分野において先導的役割を果たしてまいりましたが、近年は会員数や大会参加者がかつて程の勢いを失うなど、やはり課題も抱えております。しかし、「映画」というエンターテイメントを冠した本学会の性格を考えますと、英語教育のみならず英米文学、英語学、コミュニケーション学、映画学等、幅広い分野の研究者にアピールできる可能性を秘めており、学会名称にある「映画」「英語」「教育」という3つのキーワードを創造的に組み合わせることで、まだまだ新たな可能性が生まれると確信しております。また、本学会の将来を考えると、専門的な学術研究のみを追求する「近寄りがたい」学会を目指すのではな

く、映画を活用した様々な英語学習を幅広い層の教育者や英語学習者に啓蒙できるような「開かれた学会」を目指すべきだと考えております。多くの研究者にとって、映画は単に研究対象であるだけでなく、自身の英語学習の道具であり、大きな動機づけでもあったはずです。その原点を忘れない学会でありたいと思います。さらに、広く産業界とも連携を模索し、産学協同を推進してゆくことも学会の将来に重要であると考えます。

そのための具体的な方策としては、学会の中核事業である研究紀要および全国大会の活性化を最優先課題として挙げます。まず紀要については、優秀論文賞の新設など、優れた論文の投稿に対する奨励策を講じることにより、より一層のレベルアップを図ります。次に全国大会については、支部間の連携や協力を強化すると共に、新しい企画を積極的に取り入れ、学会のメイン行事に相応しい規模・中身にしてゆくことを目指します。また、国際交流においては、韓国の姉妹学会STEMとの学術交流は引き続き継続してゆくと共に、新たな姉妹学会との提携も視野に入れ、会員の皆さんに幅広い学術交流の機会を提供したいと考えています。

最後になりますが、言うまでもなく学会は会員一人ひとりが主役です。是非日頃の授業実践や研究の成果を積極的に大会や紀要で発表してください。皆さんが会員であることに誇りを感じることができるような学会を目指して、私は会長として全力を尽くしてゆく所存であります。

# 学術研究と啓蒙のバランスがとれた「より開かれた学会」として、さらなる発展を目指す。



## 今後の活動方針について

映画英語教育学会会長  
角山照彦(広島国際大学)

### 「より開かれた学会」を目指すにあたって

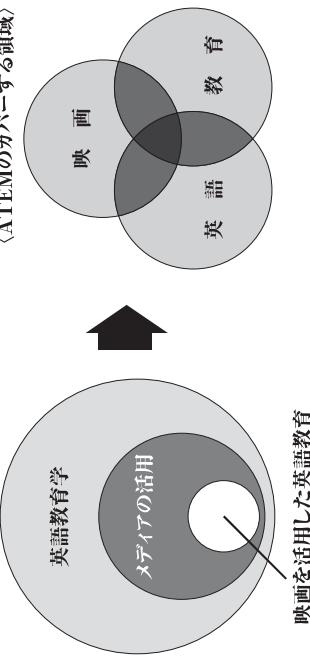
1995年の学会設立に当たつて作成された学会設立趣意書には、特に重要な点として次の3点が記載されています。

- ・時代のニーズに応える英語教育を実践したい
- ・Authenticな(本物の)英語に触れてやりたい
- ・映画は理想的な英語の教材になる

というエンターテイメントを英語教育の分野に導入しようとする非常にユニークな志を持つた学会でありましたし、そのことが研究者のみなならず、幅広い層の教育者や一般の英語学習者にもアピールする原点なのでしょう。「映画を使った英語教育」という言葉は大変魅力的に響きますが、実際実践してみると指導上難しい点が多くあるのも事実です。様々な分野、そして様々な立場の会員たちが意見を出し合い、こうした点の改善に結びつけてゆけるような学会にしてゆきたいのです。

[図1]

[図2] 〈ATEMのカバーする領域〉



こうした共通認識に立脚し、我が国における英語教育に新しい教育方法を確立するために共に研究をし、情報の交換をする目的で生まれたのが本学会です。

この原点を踏まえながら、学術研究の推進と映画英語教育の普及という2点を主軸として今後も活動を続け、さらなる発展を目指してゆきますが、具体的な活動目標は3ページ下の表の通りです。

本学会の基本は「映画を活用した英語教育」であり、今後もこのことに向ら変わりはありません。しかし、本学会の力江北する領域は「英語教育学」という分野の中で、特に映画を活用したもの」(図1参照)と限定してしまうと、対象となる研究領域を必要以上に狭めてしまい、今後のさらなる発展の障害にもなりかねないと懸念しております。

ですから、学会名柄にある「映画」「英語」「教育」という三つのキーワードが示す分野のうち、三つが互いに重なり合う部分を核としながらも、それぞれのカバーする領域まで含めて広く捉えて欲しいと考えています(図2参照)。映画を活用した文化論や社会論など、英語教育との直接の関連性は低くても、我々映画を扱う研究者にとって参考になる研究は数多くあるはずです。

また、今年、小学校でも英語教育が実質的にスタートしましたが、映画に代表される映像メディアの英語教育における可能性は非常に大きく、今後一層注目されやすくなるでしょう。そうした流れに柔軟に対応すべく、対象とするメディアも必ずしも劇場公開される「映画」のみに限定するのではなく、「映画」に代表される映像メディアと広く捉え、海外TVドラマなども研究対象に含めて頂いてよいと考えます。

さらに、会員についても、いわゆる「研究者」に限定せず、幅広く捉えて欲しいと思います。学術研究面を強調すればどうしても敷居が高くなってしまうのは否めませんが、本学会は設立当初より「映画」

## ■ 今後の活動に向けての具体的方策

コングレスト	内 容
1.優秀論文賞の新設	優れた研究に対する奨励策により、学会としての研究力の向上を目指します。
2.学会会報のオンラインデータベース化	国立情報研究所の運営する学術文献データベースであるNII論文情報ナビゲーター(略称、CInii)を活用してこれまでの会員の研究成果を幅広く社会に公開してゆきます。
3.ホームページの大規模リニューアル	既存の掲載コンテンツを見直し、学術研究や教育に役立つコンテンツをより使いやすい形で掲載すると共に、内容のさらなる充実を図ります。
1.全国大会のさらなる充実	過去最高となる200名を超える参加者のもと大盛況に終わった2011年度の名古屋大会の勢いを維持させるとともに、今後も研究者のみなさまにアピールできるよう大会運営を目指します。
2.支部活動のさらなる充実	各支部の特色を生かした支部活動の一層の活性化を目指すと共に、支部間の共同プログラムなど、支部間の連携も進めてゆきたいと思います。また、支部大会の情報は全会員へ周知徹底するなど、会員への広報を充実させてゆきます。
3.国際交流の推進	海外の姉妹学会との学術交流を一層推進していくと共に、映像メディアの活用に脚色した海外学会の紹介など、広報活動も充実させます。
4.会員管理システムの効果的な運用	会員情報の一元管理を進め、会員に有用な情報を迅速に配信してゆくことをを目指します。

# 教育界と出版界、映画界とIT・メディア業界 の融合した新しい学会の歩みを名古屋から!

## ATEM 第17回 映画英語教育学会

### 名古屋大会の新記録が示した ATEMの将来への期待



大会実行委員長  
鈴木雅夫  
(名誉理事)  
(スクリーンプレイ)

平成23年8月28日、第17回全国大会が名古屋市内の名古屋学院大学(名古屋キャンパス白鳥学舎)にて開催されました。学会の全国大会が中部地方で開催されたのは第4回大会以来、13年ぶりのこととなります。

大会のテーマは学会創設の初心を思い出し「映画英語教育の基本と多角的用法の両者、最近の学習指導要領の改訂を意識して映画英語教育を核にした小中高大的重構)とも副題されました。

大会冒頭に配置したのは「新學習指導要領にもとづく英語科教育と映画の活用」と題した前会長磐崎弘貞先生コーディナーター兼パネリストのシンポジウム。大会の最後にお願いしたのは「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」京都大学

山梨正明 教授  
(京都大学大学院)

大学院山梨正明教授の特別講演。詳しくはおののの報告書をご覧下さい。

今大会では、学会16年間の歴史に刻まれた歴代新記録があります。それは多種多様に応募され報告実施された21件もの研究発表と当日速報された216名の大会参加者です。正式集計は近く事務局より発表されることでいい。

映画英語教育学会は語学系学会としてまだ歴史が浅く、規模も決して大きなものとはいえない。それでも本全国大会の2つの新記録が示したもののは、本学会が21世紀、我が国 の国際活動を担う、若き日本人青少年たちの国際共通言語獲得のために、期待されるべき、新しい教育と研究を目指す本学会の役割であると改めて思い起こしました。

#### 特別講演

### 「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」



山梨正明 教授  
(京都大学大学院)

一般的な認知能力から独立した自律的な言語知識としては規定できないという観点に立って、身体性にかかわる前一形象的、前一記号的な生きた経験の場から、言語知識の発見と文節化のプロセスを根源的に問い合わせていく立場を意味します。この新しい言語学のアプローチは、母國語の言語能力の問題だけでなく、外国語の理解に関わる言語能力と言語運用の問題の解明にも新たな見提供することを、構文ネットワークモデルや発話行為の基本構文パターンを例に挙げ、映画の台詞から具体例を引用され、分かりやすくお話をいただきました。

このように講演会の前半では認知言語学のパラダイムと基本について、また後半は、認知言語学や語用論的観点からの映画英語教育への適用についてお話をいただきました。これからの映画英語教育研究にも関連のある深い示唆を与えていました。

文責:宝塚貴之(岐阜聖徳学園短期大学)

## 全國大会の報告

2011年8月28日(日)  
名古屋学院大学 名古屋キャンパス

### 名古屋大会の新記録が示した ATEMの将来への期待



大会実行委員長  
鈴木雅夫  
(名譽理事)  
(スクリーンプレイ)

平成23年8月28日、第17回全国大会が名古屋市内の名古屋学院大学(名古屋キャンパス白鳥学舎)にて開催されました。学会の全国大会が中部地方で開催されたのは第4回大会以来、13年ぶりのこととなります。

大会のテーマは学会創設の初心を思い出し「映画英語教育の基本と多角的用法の両者、最近の学習指導要領の改訂を意識して映画英語教育を核にした小中高大的重構)とも副題されました。

大会冒頭に配置したのは「新學習指導要領にもとづく英語科教育と映画の活用」と題した前会長磐崎弘貞先生コーディナーター兼パネリストのシンポジウム。大会の最後にお願いしたのは「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」京都大学

#### 特別講演

### 「認知言語学からみた映画英語教育の可能性」



山梨正明 教授  
(京都大学大学院)

一般的な認知能力から独立した自律的な言語知識としては規定できないという観点に立って、身体性にかかわる前一形象的、前一記号的な生きた経験の場から、言語知識の発見と文節化のプロセスを根源的に問い合わせていく立場を意味します。この新しい言語学のアプローチは、母國語の言語能力の問題だけでなく、外国語の理解に関わる言語能力と言語運用の問題の解明にも新たな見提供することを、構文ネットワークモデルや発話行為の基本構文パターンを例に挙げ、映画の台詞から具体例を引用され、分かりやすくお話をいただきました。

このように講演会の前半では認知言語学のパラダイムと基本について、また後半は、認知言語学や語用論的観点からの映画英語教育への適用についてお話をいただきました。これからの映画英語教育研究にも関連のある深い示唆を与えていました。

文責:宝塚貴之(岐阜聖徳学園短期大学)

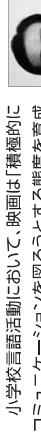
今回の大会では200名を越える参加者を迎え、平行4会場で五つの研究発表が準備されました。総会場での特別研究発表1件を加えて合計21件の発表が行われました。今大会は各会場で平均で40名以上の参加者があり、活発な大会となりました。



### 特別企画:シンポジウム コーディネータ 磐崎弘貞 発表者 秋山敏晴/石川慎一郎/磐崎弘貞 「新學習指導要領にもとづく英語科教育法と映画の活用」

2008~2009年に改訂された小中高校の学習指導要領を背景に、映画教材が持つボテンシャルを探るのが本シンポジウムの狙いであります。そこで以下の3つの発表を行った。

○発表1 秋山敏晴(北海道工業大学)  
「小学校英語活動における映画の利用について」



秋山敏晴(北海道工業大学)

小学校英語活動において、映画は「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」有効な教材である。なぜなら、映画は(1)オーセンティックで良質な英語を提供でき、(2)「内容を類推する力」を一層伸ばし、(3)文化を具体的に提示できるからである。そこで、児童にふさわしく、字幕なしで会話を集中できる場面と時間設定を考慮した上で、そうした映画題材の活用例を提示し、児童が映画で英語に親しみ、英語を使うことに自信を深めることができます。

○発表2 石川慎一郎(神戸大学)  
「コーパス・映画・語彙:小中高の英語教育への示唆」



石川慎一郎(神戸大学)

新指導要領は、「詰め込みかゆとりか」という從来の二項対立を打ち破り、「新たに『生きる力』という方向性を打ち出して、新たに『生きる力』とくに語彙指導の枠組みにおいて「生きる力」を再定義すると、英語圏の文化を背景として語彙の機能を紹介した。このした会話をしているのが、本文脈で特徴的な表現は何からといった点を、templateと呼ぶ学習シートで確認・練習した上で、グループ活動としてそのシートをそのまま再現し録画する手法を紹介した。こうした実践により、英語圏の文化を背景として語彙の機能を向上させながら、積極的な学習態度を育成することができるることを報告した。

○発表3 磐崎弘貞(筑波大学)  
「大学英語教育でvideo actingと中高校への示唆」



映画語彙は有望な語彙指導の教材となる。しかし、映画を見ると、(1)逸脱が過ぎる、(2)難度が高すぎる、(3)逸脱が過ぎる、という懸念があった。本発表では、教科書コーパスと映画コーパスを多角的に結果を比較した結果、作品を適切に選べば、比較的初級の指導にも映画が活用できることを実証した。



# 事務局から ATEM会員管理システムについて

すでにお連絡をしております通り、本学会では7月に「ATEM会員管理システム」を新たに導入し会員の皆様の個人情報を一元管理することいたしました。

今後本システムによる情報提供・会員サービスを拡充していきたいと思いますので、下記URLにて皆様の情報が最新のものかご確認ください。

会員IDおよびパスワードは7月に郵送にてお連絡をしておりますが、ご不明な方は本部事務局(office@atem.org)までメールにてお問い合わせください。

会員の皆さまの個人情報は学会が「個人情報保護法」に基づいて責任を持って管理致しております。また、学会活動以外に使用されることはありません。

## 『個人のページ』の情報確認・修正のお願い

**<https://www.atem.org/member/>**

ATEM会員管理システムには、会員皆さま方の情報を確認・修正して頂ける『個人のページ』を作成しております。『個人のページ』の情報確認・修正をお願い致します。

問い合わせ先: 映画英語教育学会(ATEM)本部事務局  
TEL:(03)3365-0182 E-mail: office@atem.org

## ATEM事務局から 2011年度会費納入のお願い

**2011年度会費(2011年4月1日~2012年3月31日) 5,000円**

- 2011年分の会費の入がまだお済みでない場合は、下記の郵便口座まで納入願います(5,000円)。会費の納入が遅れますと学会活動に支障をきたしますのでご協力ください。また、**2年以上滞納されますと会員資格を失います**。ご注意ください。
- 会費納入状況についてご不明な方は、同封の「ATEM会員管理システム」導入に従って、ログインを行い、ご自身の納入状況をご確認ください。

**個人の会費納入状況**

過去3年分の納入状況が表示されています。

※必ず会費の納入状況をご確認ください。  
※納入後一ヵ月以上経過しても表示が変わらない場合は何かの手違いの可能性があります。ご面倒でも本部事務局までお知らせください。

**『映画英語教育学会事務局』口座番号 00820-3-1477**

\*郵便局備え付けの青色振替用紙をご利用ください。\*必ず、通信欄に「○○年度年会費」と明記ください。

※ATEMでは会費納入は本部事務局への振込みが原則です。支部および個人会員が預かる事はありません。会員登録や学会からの配布物・情報サービスは会費納入を確認の上、本部事務局で手続きを行いますのでご注意ください。